

事業団
だより

やまなみ 冬

2010年
第2号

謹賀新年



写真提供：小諸市 雪化粧した浅間山



平成 21年 10月に浅間山を望む佐久市(東信地区)にサンアップルのサテライト「サンスポート佐久」を開所しました。



はら けんじ

長野県社会福祉事業団
理事長 辰野 恒雄

新年明けましておめでとうござい
ます。

世界的な不況の嵐が吹き荒れ大変
なこの頃ですが、皆様には気持ちも
新たに新しい年をお迎えのことと思
います。

昨年、長野県社会福祉事業団は「伊
那ゆいま〜る」(伊那市)、辰野町障
害者就労支援センター「工房ぬくも
り」(辰野町)、サンスポート佐久(佐
久市)の三事業所をスタートさせる
ことができました。これで県内四つ
のすべてのブロック(北信、東信、
中信、南信)でサービス提供の足が
かりを作ることができ、それぞれの
地域の中で他機関の皆さんと共に活
動してまいりました。

政権が変わって法律も変わってい
くという曖昧な部分を抱えたままの
新年スタートとなりますが、障害を
持つ人たちが普通の生活をするため
の地域づくりが一層強く求められる
ことになることは間違いないと思
います。

今年も、それぞれの地域で根を下
ろし始めた障害者自立支援協議会に
も積極的に参加し、サービスの充実
に努めてまいります。

【特集記事】

・「働く」を考える ①西駒郷授産部門の変遷

【連載記事】

・事業所リレートーク

・チャレンジ・アクション

『進めます!「アートワークショップ」・「アトリエあつぶる」』

『「ふらっと」創刊!』

・つれづれ福祉

『地域に・人に・みんなに支えられ』

～ほっとワークスGH・CHセンターの取り組み～

伊那ゆいま〜る開所式



漫画家 橋爪まんぶさん制作の看板を囲んで
(平成 21年 12月 4日)

辰野町障害者就労支援センター
「工房ぬくもり」開所式



辰野町町長・理事長による看板設置
(平成 21年 6月 19日)

「働く」を考える

① 西駒郷授産部門の変遷



特集「働く」を考える (全3回)

- ① 西駒郷授産部門の変遷
- ② 新設就労支援事業所の取り組み
- ③ 一般就労に向けた取り組み

人が生きていく上で「働く」ということは、重要な要素の一つです。

人が「働く」目的は、一般的な「お金を稼ぐこと」のほかに、「自分の能力を発揮し社会にチャレンジすること」＝「社会貢献による喜び・やりがいを持つこと」、そして「人間関係を構築すること」等多岐にわたり、その価値観も人により異なります。当事業団では、これまで多くの利用者に働く場を提供するとともに、一般就労に向けた支援を行ってきました。

本紙では今回から3回にわたり「働く」を考えたいと思います。

このページの写真は、主に昭和50年代の西駒郷授産部門の作業風景です。

当事業団は昭和40年設立以降、知的障害者援護施設「水内荘」の経営（S41）と県立の知的障害者総合援護施設「西駒郷」の授産部門の受託（S45）を行ってきました。

両施設とも昭和35年（S42改正）施行の精神薄弱者福祉法（更生施設は：その更生に必要な指導及び訓練を行うこと）「授産施設は：雇用されることが困難なものを入所させて：職業を与えて自活させること」に基づく入所施設として開設されました。当時は、「更生」「社会復帰」「就職」というイメージが強く、一般就労により退所するケースが多く利用者の入れ替わりも頻繁でした。

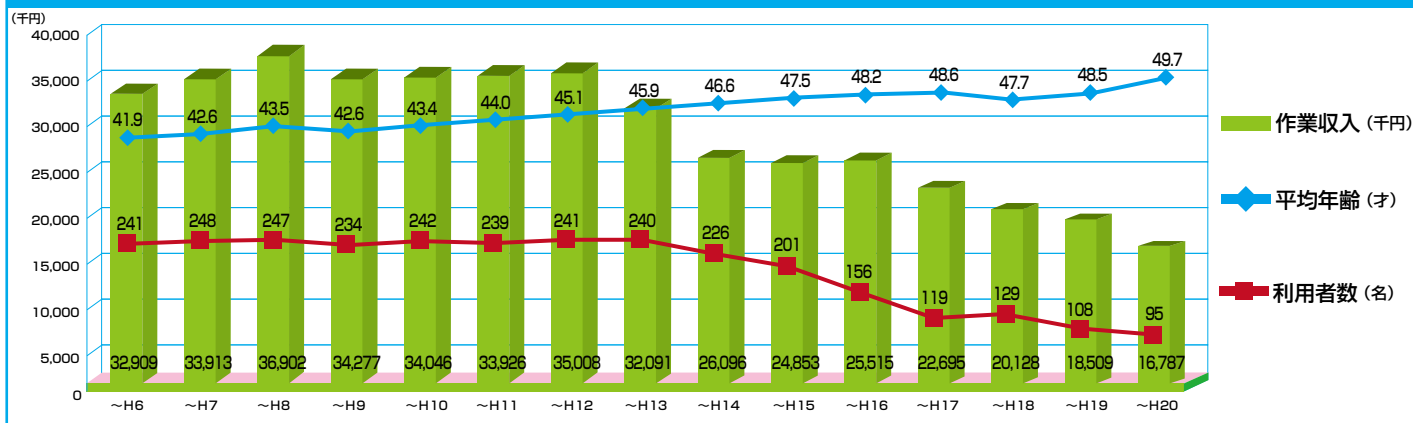
ところが、昭和48年のオイルショック以降、一般就労への道は険しくなり、長期にわたる施設利用が増えたため、施設サイドでは法による授産施設の趣旨も踏まえ、一般就労を目指すより施設内の授産活動を充実させることに重点が置かれ、知的障害者福祉の世界では「福祉的就労」「庇護授産」という言葉も生まれました。そうした中で、当事業団も長きにわたり利用者のニーズにあった作業種を導入し施設内授産活動の活性化に努めてきました。

また平成14年、長野県では全国に先駆け、入所施設からの地域生活移行がスタートし、大きな転換期を迎えることとなりました。

地域生活移行者支援三点セットの一つである「日中活動の場」「働く場」の確保が急務となり、当事業団も短期間に「就労支援事業所」を複数立ち上げました。一方、既存の施設内授産活動は縮小を余儀なくされました。

本紙「やまなみ」では、こうした経過を振り返り、第一回は「西駒郷授産部門の変遷」、第二回は地域生活を視野に入れた「新設就労支援事業所の取り組み」、そして第三回は「一般就労に向けた取り組み」をテーマに、「働く」を考えます。

表1 西駒郷授産部門（生業部）における作業収入、利用者数、平均年齢の変遷（H6～H20）



作業形態別にみる
西駒郷授産部門の変遷

昭和43年開設の県立西駒郷（コロニー）は、授産部門（生業部）、更生部門（更生訓練部（指導・訓練）、保護部（介護））で構成され、それぞれの障害程度や目的に沿った総合的支援を行ってきました。更生部門の更生訓練部では若年者を中心に一般就労に向けた指導・訓練を行い、一般就労が難しく長期入所となった利用者は、授産部門（生業部）に移行するという道ができました。今回の変遷では、表1の通り、平均年齢は知的高齢者の支援施設悠生寮（社福）りんどう信濃会は昭和53年〜平成9年まで県内に6施設開設）への移行等により平成9年度まで40歳代前半でしたが、その後加齢し平成20年度は49歳となりました。利用者数は約240名（定員250名）でしたが、平成14年度からの地域生活移行に伴い平成20年度は95名（通所者含む）と大幅に減少しました。また、作業収入も3千400万円前後をキープしていましたが、企業との契約解除や自主作業種の廃止、地域生活移行に伴う利用者の減少等で平成14年度以降大幅に減少しました。支援体制は、8つの所内作業科と所外科（一般企業実習者支援）とし、平成15年度からは通所事業を開始しました。本体制を時間的経過で分析すると、表2の通り「地域性を生かした自主作業の作業科」「企業とタイアップした受託作業科」「重度者・病弱・高齢者を配慮した受託作業科」と概ね3パターンになりました。

（データは平成6年度以降とした理由は、生業部開設以来、同年度まで作業収入、作業種に大きな変動がなかったことによります。）

(1) 作業科の変遷（平成6年度～平成20年度）表2

① 自主作業継続型 各科独自の自主生産を中心とする作業を継続的に実施

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	
農園芸科 (農畜産科)	野菜、水稲、養鶏							花卉導入		養鶏廃止					(1,500)	
	(6,700)							(5,000)		← (2,600) →						
クリーニング科	クリーニング (シーツ、浴衣、作業服)															(7,600)
紬縫製科	紬織物 (着尺、ネクタイ)															(2,600)
	作業服加工															

② 大規模受託継続型 企業からの大規模受託生産を中心とする作業を継続的に実施

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	
木工科	木工製品の製作 (椅子部品、額縁部品、養蜂箱)							花台の製作		(2,200)		科廃止				
	(3,400)															
ブロック科 (林産科)	各種コンクリート製品の製造 (VSブロック)															(10,700)
								(6,000)		(3,300)		ブロック廃止 薪づくり導入		椎茸導入		(4,200)

③ 小規模受託変動型 企業からの受託生産と小規模な自主生産の組み合わせによる作業の実施

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20		
第一軽作業科	Wクリップ組立等 牛乳パック再生 (名刺等)							公衆トイレ掃除導入		(1,400)		ベースねじ 入れ等導入		(870)		科廃止 紙器科へ統合	
	(1,400)							(1,800)									
第二軽作業科	電気部品もぎとり等 石けんの製造							レッキー箱詰 導入		(700)		ガーゼたたみ導入		科廃止 紙器科へ統合			
	(1,300)							(850)				(1,300)					
紙器科	ダンボール仕切り 箱詰め							ハーブ製品製作導入		(700)		緩衝材導入		つま物導入		背板鉸打導入	
	(1,400)							(1,300)				(600)				(1,600)	

※上記一覧表の見方 ① 青色…受託作業、赤色…自主作業（色の幅は作業収入額と比例しています）
② () 内の数字は期間内における年間の平均作業収入額（単位：千円）

(2) 作業形態別に見えた特徴

① 自主作業継続型

該当作業科は、伊那谷の風土を考慮し比較的作業能力の高い利用者を対象とする農畜産科（養鶏、野菜、クリーニング科、袖縫製科（着尺、袖小物）である。

自主作業は、地域性や利用者ニーズに合わせて作業種を選択できるメリットはあるが、設備投資を伴う場合は、経営リスクに十分配慮する必要がある。作業収入アップに向けて付加価値の高い作業種導入は当然であるが、振り売り・出店・即売会等、販路開拓への創意工夫は、「働くこと」の「楽しさ」や「喜び」を得ることができ、利用者が一番希望の多い作業形態である。

「農園芸科（農畜産科）」の場合

自然に接することや屋外作業を希望する利用者対象の本科は、養鶏作業の自動給水装置導入等を図ったが、収益率の悪さや鳥インフルエンザと鶏糞処理の問題等により16年度廃止し、作業収益は激減した。また14年度以降地域生活移行者が増加し、利用者数も減少した。



② 大規模受託継続型

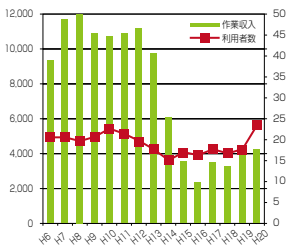
該当作業科は、近隣に大企業が点在していることを生かして、高度な機械を使用するため巧緻性・安全性が要求される「木工科」と「木工科」である。

設備や機材等は企業から貸与いただけるケースが多く、設備投資のリスクは低いものの、「受託作業」であることから、継続性については社会の景気動向に左右されやすく、利用者が時間をかけて身につけた技術もふいになるケースもある。

作業収入に不安はあるが比較的高収入が期待でき、利用者にとって作業意欲の喚起に繋がる作業形態である。

「林産科（ブロック科）」の場合

隣接する大手コンクリート製品製造企業が職員派遣設備投資を行う型でタイプアップし、作業収入も平均年間一千万円程度の本科は、企業都合により15年度30余年続いたブロック作業が廃止となり作業収入も激減した。体力ある利用者も考慮して、直ちに林産企業の新割り作業を受託して収益アップに努めた。



③ 小規模受託変動型

該当作業科は、重度・病弱・高齢者を対象に、上伊那地区に多い中小企業からの受託作業を行う「第一軽作業科」、「第二軽作業科」、「紙器科」（6年までは、呼称を「機械科」といっていた）である。

設備面では、ほとんどが机と椅子、治具使用の単純軽作業である。孫企業からの受託も多いため作業収入は低く、表2の通り、一定の時間が経つと企業・作業種が変動するという「階段式」作業形態である。また、利用者の精神安定を図るべく継続性の観点から各作業科では、自主作業も組み合わせ実施した。

西駒郷授産部門の変遷から見えたもの

本部門は、昭和48年オイルショックの波があったものの開設以来、比較的安定した授産活動を継続していましたが、平成のバブル崩壊で多くの作業科では作業の減少、中止などがあり、支援体制や作業種等の改変を図りました。また、平成14年度以降の地域生活移行に伴い、授産活動の縮小・作業科の再編が行われました。

ここでは、「働く」の観点で見えてきた事柄についてまとめてみました。

「働く」意義・目的の明確化

働くことを通じて利用者が「社会的存在としての再確認」をしていく中で「工賃を得る、達成感を得る、役割を果たす」は「自主・受託作業」共通に体得できますが、「生産の喜び、社会との繋がりが」等は「自主作業」が優位でした。

「働く」作業環境を継続する

受託作業は景気動向や企業の事情に左右され、継続性に欠けていました。一方「自主作業」は、顧客動向に変化はあるものの事業所で独自判断ができるという意味でも、継続可能な環境にありました。

「働く」と工賃アップ

「受託作業」は、作業量、工賃単価が企業ペースで決められるため収入は不安定でしたが、大規模受託継続型は設備投資を企業がする等により、高収入でした。「自主生産」では、既存作業科のコスト意識やマーケティングの弱さを反省する中で、地域性を考慮し日々消費する製品の生産・販売が収入増に繋がることがわかりました。

西駒郷は平成23年度の新事業体系移行に向けて、本年度「検討委員会」立ち上げました。就労支援事業では、「工賃アップを主目的とする」「生き甲斐を主目的とする」等意義・目的を明確にして検討しています。（降籾）

① 知的障害者援護施設「水内荘」 地域で生活する方が入所者を上回りました！

水内荘（みのちそう）は、昭和 37 年に県内では初めて、全国でも 6 番目の知的障害者入所更生施設として開設。当初から、利用者の就労をはじめ、地域との繋がりを重視した支援を進めてきました。当時は、2 年間を目途として作業・生活訓練を実施。10 年間で 90 余名が近隣の旅館や企業等に就職しました。また、当時としては画期的な就労先への「状況調査（アフターフォロー）」、就労者対象の「激励会」を 20 年間に亘り実施し、雇用の継続と安定を目指した支援も行なってきました。

現在は、障害者自立支援法が施行され、障害者福祉の体系が抜本的に見直されるなどの環境変化に加え、利用者の高齢化・重度化も一段と進み、利用者個々のニーズや適性に応じたきめ細かい支援が求められています。そのため、積極的に入所定員を削減し、地域生活移行者への支援体制強化を中心に位置づけて運営にあたっています。

さらに、本年度は 12 月に共同生活住居 1 ヶ所が新設されました。その時点で、地域生活移行者が 51 名、入所利用者が 48 名となり、開設以来初めて地域で生活する方が、入所者を上回る記念すべき年となりました。

「住みたい所で暮らそう・応援するよ」入所利用者はもとより、地域で暮らす皆さんにとっての拠り所となれるよう奮闘しています。（宮澤）



③ ほっとワークス・みのわ 『ほっと』なパンをあなたに！

知的障害者通所授産施設「ほっとワークス・みのわ」は、平成 17 年 10 月に開設し、今年度 4 周年を迎えました。

「パンの製造・販売」を中心にビーズ製品などの自主製品づくりや一般企業からの受託作業、そして屋外での野菜の生産等を 21 名の利用者が力と気持ちをあわせて活動します。

「地域の皆さんに喜んでもらえるようなパンをきちんと焼きたい」と自分の仕事に責任を持って取り組んでおり、焼きあがった 40 種類のパンは毎日、地域の各団体や企業などへ出掛けて販売します。

「このパンが好きだから次回も持ってきてね」「新作パン毎月楽しみにしているよ」等、お客様の声は何よりの励みになっています。

そしてお客様の中には『ほっと』なパンをロコミで知り、わざわざ当所を尋ねて買いに来てくださる方もおられます。このようにパンの評判から少しずつ人の輪が広がり、一歩ずつ地域に根ざし定着していている事を感じ嬉しく思っています。

今後も、ホカホカふんわり『ほっと』な焼きたてのパンと利用者みんなの元気な笑顔でお待ちしています。（三澤）



② 長野圏域障害者 総合支援センター 歩楽里

小さなセンターから大きな安心と楽しい時間届けます

歩楽里（ふらり）は開設し今年で 6 年目を迎えました。開設当初は市内の新興住宅地の賃貸物件を活動拠点に 3 名のスタッフで相談支援事業と障害児のタイムケア事業を展開、『小さなセンターから大きな安心届けます』をモットーに、長野市をはじめ中野市や小布施町、須坂市等にお住まいの障害児を抱えるご家族の相談に乗ったり、育児や介護負担の軽減を図ることに努めました。

4 年目からは八雲日中活動総合センターに併設され、スタッフも学生アルバイト等も含め 15 名となり、障害児の支援以外に水内荘のホーム利用者の余暇支援も行なうようになりました。

障害児については毎月「歩楽里カレンダー」を作り、放課後や休日、長期休業時に、ご家族に代わってヘルパーが支援を行います。

また、ホーム利用者へは休日の買い物や理美容等の外出支援を中心に、旅行の企画や引率を行ないます。とりわけ、今夏は総勢 48 名が地元豊野町の夏祭り（よいチョコ祭り）の踊り連に揃いの T シャツや八雲作業所の藍染めの手ぬぐいを身にまもって参加し、見事に特別賞をいただきました。

なるべく利用者ニーズに応えられるようにスタッフ一同、努めています。（小島）





進めます！「出前アートワークショップ」・「アトリエあつぷる」

～アート（文化・創作）活動をもっと身近に～

長野県障害者福祉センター「サンアップル」

長野県障害者福祉センター「サンアップル」は、県内3ヶ所のサテライト「サンスポート」と共に、長野県全域のスポーツ活動支援を行っています。アート（文化・創作）活動支援についても、長野市内のサンアップルに限らず、県内全域を対象とした講師派遣による出張講座を平成18年度より実施し、地域のニーズ・実情に即した形で柔軟に展開しています。今回は、その「あまり知られていないように知られていない」サンアップルのアート活動支援の取り組みについて紹介します。

サンアップルのアート活動支援は、①ふれあい・交流の輪を広げること、②ねらいとした「交流イベント」、③障害のある人が気軽にアート活動に取り組めることを目的にした「文化教室」、④日々のアート活動を支援する福祉施設



職員・ボランティア等、いわゆる「アートサポーター」の人材育成をねらいとした「アートサポーター養成」の3つのコンセプトで展開しています。（下表参照）今回は、昨年度より新たにスタートした事業を紹介します。

一つ目の「出前アートワークショップ」（「絵画」、「書」、「音遊び」の3講座）は、普段活動している身近な現場で実施することで、「今後の活動に結び付けやすくした」活動のヒントを直接講師に相談することができた。「楽しくアート活動を感じることができた」等、好評をいただいています。

二つ目は、サンアップルを会場に実施している「アトリエあつぷる」です。アトリエは直訳すると画家や芸家が仕事をする場、「工房」という意味ですが、サンアップルでは月1回のペースでいろいろなアート活動を体験する場と位置づけ、筆あそび（書道）、絵手紙といった創作体験から木工の工芸玩具にふれ合っただけでなく、「木のおもちゃ広場」まで幅の広いアート活動を紹介します。その活動を楽しく、身近に感じてもらえる機会を増やしていきます。

アート活動には「こうしなければいけない」ということはなく、自由な発想と自己を表現する楽しさを心で感じる事が大事です。サンアップルは今後も表現する楽しさを心で感じるアート活動の支援に取り組んでいきます。

（佐藤）

区分	事業名	趣旨・内容	実施時期
① 交流イベント	長野県障害者文化芸術祭	障害者作品展や舞台発表などを通じて、アート活動振興と社会参加促進を図るために実施	9月
	アートフェスティバル	日々の障害者の文化芸術活動の成果を発表するステージ	7月
② 文化教室	アトリエあつぷる	絵手紙、筆あそび（書道）、木製玩具紹介等のアート活動体験会	月1回
	ドラムサークル	ドラム等の打楽器を使ってのリズム遊び	2ヶ月に1回
	館外体験会	県内各地に出向いての活動体験会	通年適宜
③ アートサポーター養成	出前アートワークショップ	講師派遣型の出張講座。体験会をとおして活動支援技術や方法を学ぶ	8～1月適宜
	アート活動セミナー	障害のある人のアート活動の啓発・理解を目的に開催	11月
	アートサポーター養成講座	障害のある人のアート活動のとらえ方や進め方などを講演や体験会を通じて研修する	2月



「出前アートワークショップ（書）」講師の関孝之さん（写真右）

「ふらっと」創刊！

～余暇情報紙で生活に潤いを～
水内荘グループホーム・ケアホームセンター

今年度より、当センターでは利用者の皆さんを対象に「ふらっと」という余暇情報紙の発行を隔月で始めました。

きっかけは、利用者の余暇活動の聞き取り調査結果から、余暇に関する情報の少なさを感じたからです。私たちの身の回りにはテレビやパソコンなど情報媒体が溢れています。利用者が求めている情報を得るためには、スタッフが利用者向けにわかりやすく情報を要約する必要性を感じました。

掲載する記事は映画やコンサートなどのイベント情報から隣商店の割引セールのお知らせまで皆さんが興味のあるような情報を厳選。編集にあたっては、写真や絵を多く用いる、文章にはルビ、横文字など分かりにくい単語は使用しない等、とりあえず思いあたる工夫からはじめてみました。



今のところ皆さんの反応をみながら試行錯誤している段階ですが、「ふらっと」をきっかけに、仲の良い2～3人で川中美幸や八代亜紀のコンサートに出かけたり、長野オリンピックスタジアムで行われたナイター観戦（横浜×巨人）に出かけたりと、徐々に利用者の余暇活動に広がりが見え始めました。

今後も「ふらっと」が皆さんから愛されるような紙面づくりに努めたいと思います。（西郷）



地域に・人に・みんなに支えられ

～ ほんとワークスグループホーム・ケアホームセンターの取り組み ～



西駒郷が位置する上伊那圏域では、当事業団が運営する20ホームで現在94名が生活しています。そしてホーム利用者と近隣地域住民との繋がりも芽生えはじめています。今回は、そうした中で、ほっこりさせられた2つのエピソードを紹介します。



「伊沢屋は地域の仲間です」

西駒郷から車で約10分ほどの宮田村内に平成17年9月に開設したホーム「伊沢屋」（この名称は、この家の屋号＝ニツクネームの呼び名）での出来事です。

開所間もない頃から、伊沢屋では長野県ならではの「漬物交流」が始まり、近所の方々がそれぞれの家の漬物を持ち寄った「お茶会」が頻繁に行われるようになりました。そのうち「お茶会」のボランティアまで現れ始めました。

そんな中、今年（平成21年）の秋にはいり、伊沢屋利用者の金子さんから「今度は、皆でとん汁とおにぎりを作って、近所の人たちにご馳走したい。」と提案がありました。センターも実現を

支援し、「とん汁交流会」は、11月29日に決まりました。しかし、提案者の金子さんは11月14日に突然天国に逝ってしまったのです…。

「11月29日の開催」について、金子さんが亡くなられて間もない為スタッフは躊躇していましたが、彼の思いを地域の皆さんが解ってくださり、当日は11軒22人もの参加で開催することとなりました。

交流会では、地域の方から「空き家だった大きな家に電気がついて、賑やかになってよかった」「みんな挨拶も良くなってくれる」「我々、地域の方は、歳をとったので、若い人（伊沢屋利用者）に助けてもらいたい」との温かい言葉や「これからも、地域交流として金子さんを偲んでの『とん汁交流会』を毎年11月にしていこう」とのうれしい提案をいただきました。これからもずっと伊沢屋は地域の仲間です。



五味さん・真智子さん最高の一日

西駒郷を利用していた五味さんと真智子さんは、「2人でくらしたいから…」と駒ヶ根市のホーム「加納住宅」（平成20年7月開設）で、生活を始めて1年6ヶ月。ここに至るまで、沢山の「こんなはずじゃなかった…」を乗り越えてきました。

今回は、真智子さんの「ウエディングドレスが着たい！」という願いを叶えたくて、センタースタッフが2人と相談し、平成21年11月23日に市内「アイパルいなん」での「手作りの披露パーティー」を企画しました。

当日は約40名の参加があり、芸能人並のカメラフラッシュの中、キャンドルサービス、ケーキ入刀、隣組長からの挨拶、友人からの手作りプレゼント、ボランティアによる手品・ダンス等、二人を支える地域と地域の皆さんが一つにな



前西駒郷地域生活支援センター所長 山田優さんから祝辞をいただきました。



隣組長：北原和雄さんより「いつも二人で、組の行事に参加し、熱心に作業をしてくれて、頭が下がります。そして、こんな心温まる披露宴を作り上げた支援者が、お二人についていることが素晴らしい。今日は感激しました。」



れたすばらしいパーティーでした。五味さん、真智子さんにとって、平成21年11月23日は最高の一日となりました。（遠藤）

トピックス①

トマト栽培が実を結んだ合同研修

〈音楽療法・感覚統合訓練法を学ぶ〉

前回の「やまなみ」で紹介した「トマトの共同栽培」で培った施設間の「絆」を活かして、県の「複数事業所連携事業※」による合同研修を9月より毎月第3木曜日の夜に開催しています。研修は「障害児支援に当たり、個々の障害特性を踏まえ、その子自身の持つ力をどのように伸ばしたらよいのか」を目的に、音楽療法や感覚統合訓練法の講義と実技を音楽療法士の西山昭美さんを講師に計6回シリーズで学び合います。毎回当事業団を含めた複数の施設から30名前後が参加しており、施設の枠を超えたこのような合同研修を通じて、課題を共感、共有しながらお互いのスキルアップに努めています。(小島)



合同研修風景 (ハーモニー桃の郷にて)

※「複数事業所連携事業」：複数の事業所がネットワークを形成し、協同による求人活動、合同研修によるキャリア開発等を行い、事業所間連携による新たな経営モデルを通じ、人材の確保・育成を図ることを目的とする県の助成事業。

トピックス②

サンスポート佐久オープン!

平成21年10月1日、東信の佐久市に「サンスポート佐久」が開設され、これで県内4ヶ所にレクリエーション・スポーツ支援の拠点ができあがりました。

「サンスポート佐久」は「サンスポートまつもと」同様、独自の体育施設を持たず、障害者団体、施設の要望・希望などに合わせて、皆様の住んでいる地域へ向かって、そこにある体育施設等をお借りしながら、活動を展開していきます。

是非皆様、気軽に運動して、気持ちのよい汗をかいてみませんか!!(三浦・吉川)



出前スポーツ出張教室風景 (上田悠生寮にて)

人事異動

事業所間異動等

(平成21年7月1日付)

西駒郷

生業部長 伊藤 敏(兼)
辰野町地域活動支援センター
辰野町障害者就労支援センター
所長 滝 茂樹(兼)
所長代理 降旗 正章(兼)

(平成21年8月1日付)

サンスポートまつもと

指導員 島崎 由紀子(サンアップル指導員)
サンスポート佐久
指導員 三浦 雄高(サンアップル指導員)

(平成21年10月1日付)

西駒郷

支援員 宮田 信子(ほととワークスみのわ支援員)
ほととワークス・みのわ
主任支援員 三澤 淳子(西駒郷主任支援員)
ほととワークスグループホーム・ケアホームセンター
主任兼主任支援員 遠藤 清美(西駒郷主任支援員)

退職

(平成21年6月30日付)

水内荘

看護師 萩原 由美子

西駒郷

生業部長 原科 正明
支援員 林 真弓
辰野町地域活動支援センター
辰野町障害者就労支援センター
所長 原科 正明(兼)

(平成21年10月31日付)

八雲作業所

八雲日中活動総合センター
主任支援員 松林 一男

プレゼント

事業団より「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号②住所③氏名 を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せ下さい。

3月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「伊那ゆいま〜」の「ゆらゆらとんぼ・古布加工製品セット」を5名の方にプレゼントいたします。なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



伊那ゆいま〜の所長
理橋 行雄
からのメッセージ

注) 全て手作り製品のため、お届けする商品は上記と異なる場合があります。

多くの方たち「結いがま〜るくなりたいね・つながりたいね」と、製品づくりに励んでいます。

製品はどれも手作り。同じ物は一つもありません。

主に「ゆらゆらとんぼ」などの木工製品と、古布を使用した「和風ポーチ」や「バッグ」等の布製品を製作しています。手作りのあたたかい風合いで、どこか懐かしい…そんな製品をそろえてお待ちしております。

詳しくはHP(<http://www8.plala.or.jp/yuima-ru/>)をご確認ください。

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。

編集後記

「暖冬傾向」が予測されたこの冬。長野県では例年以上の寒さが続いており、特に北信地域では毎日のように雪が降っています。景気低迷の影響はあるものの、雪不足を心配していた県内のスキー場関係者は胸をなでおろしているようです。

さて、「やまなみ」では特集記事として3回にわたり「働く」を考えます。今回は第1回として「西駒郷授産部門の変遷」を取り上げました。編集にあたって西駒郷の開所から現在まで約40年間の膨大な資料や写真に囲まれ、「この授産活動は利用者の生活の一部であり、人生そのものであったのではないか…」と思いを巡らせるとともに、その「働く場」を提供してきた私たち職員の責任の重さも痛感する機会となりました。

今後、特集記事に取り上げて欲しいテーマがありましたら是非ご連絡下さい。皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

(中村)



社会福祉法人 長野県社会福祉事業団
〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
tel: 026-228-0337 fax: 026-228-0310
URL: <http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/>